

第2学年 道徳科学習指導案

場所 2階 2年2組教室
指導者 加納 真理子

- 1 主題名 本当の友情とは
2 教材名 みんなでとんだ!

■ わらい

単なる勝ち負けではなく、2年1組の生徒全員が得たものに共感することを通して、全員の幸福を思って互いを理解し、友情を深めようとする意欲を育てる。

3 本時展開

☆人権教育の観点との関わり

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助		
導入	<p>1 昨年度の体育大会の様子から、学習の見直しをもつ。 ○昨年度の体育大会の写真を見て、思い出を振り返る。 ・応援合戦やリレー、大縄があった。 ・初めはうまくいかなかったけど、みんなで団結できた。 ・勝てて嬉しかった。 ・負けて悔しかったけど、やってよかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の場面を想像しやすいように、昨年度の競技の様子を写真で示す。 ・昨年度の体育大会について、事前にアンケートを行い、どんな思いで取り組んだのか、どんな感想をもったのかを紹介する。 ・大縄の話題を取り上げ、範読につなげる。 		
展開	<p>2 範読を聞き、深い友情について話し合う。 ○金沢さんはどんな思いで「みんなでとびたい」と話したのだろう。 ・矢部ちゃんを仲間外れにしている自分が嫌だったから。 ・みんなでとびたい気持ちが強かったから。 ・ずっと、矢部ちゃんと一緒にとばないことが嫌だと思っていたから。 ★二重自我法</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <p>○「みんなでとびたい」のはなぜだろう。 ・矢部ちゃんも含んで、2年1組の仲間だから。 ・矢部ちゃんの「やりたい」という本当の気持ちを尊重したいから。</p> </td> <td style="width: 50%;"> <p>○「今までどおりがいい」のはなぜだろう。 ・今まで練習してきたし、勝ちたいから。 ・矢部ちゃんが入ることで、跳べなくなったら矢部ちゃんが責任を感じてしまう。 ・今までの練習が無駄になるから。</p> </td> </tr> </table>	<p>○「みんなでとびたい」のはなぜだろう。 ・矢部ちゃんも含んで、2年1組の仲間だから。 ・矢部ちゃんの「やりたい」という本当の気持ちを尊重したいから。</p>	<p>○「今までどおりがいい」のはなぜだろう。 ・今まで練習してきたし、勝ちたいから。 ・矢部ちゃんが入ることで、跳べなくなったら矢部ちゃんが責任を感じてしまう。 ・今までの練習が無駄になるから。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物のそれぞれの意見や葛藤を感じ取ることができるように、範読を聞きながら、印象に残った言葉に線を引かせる。 ・金沢さんの提案の内容と、それに対する仲間の反応、矢部ちゃんの思いを確認し、板書に位置付けることで、様々な価値や心の弱さ、強さがあり、それにより2年1組が話し合っていることが分かるようにする。
<p>○「みんなでとびたい」のはなぜだろう。 ・矢部ちゃんも含んで、2年1組の仲間だから。 ・矢部ちゃんの「やりたい」という本当の気持ちを尊重したいから。</p>	<p>○「今までどおりがいい」のはなぜだろう。 ・今まで練習してきたし、勝ちたいから。 ・矢部ちゃんが入ることで、跳べなくなったら矢部ちゃんが責任を感じてしまう。 ・今までの練習が無駄になるから。</p>			
前段	<p>○「おれたちはさ、もう、話し合ったときから勝ってたんだよ！」とあるが、2年1組が得た勝利とは何のことだろう。 ・みんなが本音を出し合って話し合い、結論を出したことへの喜び。 ・お互いを尊重し、一つに団結できたことへの感動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆自分とは異なる意見についても、共感的に考えることができるように、二重自我法を使ったペア交流を行う。そうすることで、自分とは異なる意見について考えたり、共感したりすることができる。このことは、生活の中で自分の考えだけが正しいと主張するのではなく、相手の考え方に共感しようとする態度を育てることにつながる。(自己啓発力) 		
展開後段	<p>3. 自分のクラスを「最高!」と言うために大切なことはどのようなことか話し合う。 ○最高の2年2組になるためには、どのようなことが大切だろう。 ・自分と同じように仲間の気持ちを大切にすること。 ・学級目標にあるように、お互いを認め合い、助け合い、高め合うこと。 ・皆の気持ちを一つにするために話し合うこと。 ・自分の思いを仲間に伝えること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級目標につながる発言や具体的な行動についての意見を取り上げ、自分たちの生活と結び付ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価の視点】 多様な考えに触れる中で、互いを尊重し、認め合い、励まし合い、高め合うことで得られた深い友情の大切さについて、自分の考えを深めている。</p> </div>		
終末	<p>4. PLUS「人と人との調和」(教科書p39)を読み、自分と仲間の個性を認め合って生活することについて考える。 ・ワークシートに振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えの変容や、仲間の意見について考えたこと、価値に迫る内容を書いている生徒の振り返りを紹介する。 		

第3学年 道徳科学習指導案

場 所 3階 3年3組教室
 指導者 柳瀬 陽一

- 1 主題名 友情、信頼
 2 教材名 心から信じ合える友を

■ ねらい

互いの立場や気持ちを尊重した言動を取ることが友情を育てていくことに気づき、仲間を尊重した言動について考え、友情を深めていこうとする態度を育てる。

3 本時展開

☆人権教育の観点との関わり

	基本発問と予想される生徒の反応	指 導 ・ 援 助
導 入	1 事前調査結果から、学習の見通しをもつ。 ○心から信じ合える友人がいますか。その理由は？ ・いる○人 ・いない○人 いつも助けてくれる。 そんなに信じられない。 ○ライバルに対してどんなことを思いますか。 ・勝ちたい。 ・負けたくない。 ・相手も強い。 2 平昌オリンピックの映像を通して、小平奈緒選手について知る。	・事前調査をもとに、教材の価値への方向付けをする。 ・教材の登場人物や設定について、動画を提示して大まかに紹介し、教材を読む。
展 開 前 段	3 小平選手の李相花選手に対する気持ちが分かる部分に線を引きながら範読を聞く。 ○小学生からソチオリンピックまで、李選手に勝てなかった時、小平選手はどんな気持ちだったのだろう。 ・悔しい。 ・すごい選手だ。 ・なぜ勝てないの。 ・大切な友人。 ・手の届かない相手。 ・一緒に頑張りたい。 ○平昌オリンピックで李選手が滑る前、口もとに指を当てるしぐさをした時、小平選手はどんな気持ちだったのだろう。 ・お互いが全力を出し切った勝負がしたい。 ・正々堂々と勝ちたい。 ・李選手が全力を出せるようにしたい。 ○小平選手の行動を見た時、李選手はどんなことを思ったのだろう。 ・ありがたい。うれしい。 ・この場面でもあんなことができるなんてすごい。 ・ライバルだけど本当に信じられる人だ。	・線を引いた部分を発表する際にイラストを提示し、内容をつかませる。 ・ライバルに負けて悔しい気持ちと、素直に相手の実力を認め共に頑張りたいという気持ちとの間で揺れる小平選手の気持ちに共感させる。 補助発問 ○金メダルがかかったレースで、なぜ小平選手は李選手を思いやる行動ができたのだろう。 ・ライバルであるからこそ、相手の実力を認め、その立場や気持ちを尊重した言動をとることの価値に共感させる。 ・李選手の気持ちを考えさせ、ライバルでありながら、互いに心から信じられる仲間だと思えた気持ちに共感させる。
展 開 後 段	◎レース後、自分が小平選手なら、李選手にどんな声をかけたり、行動を取ったりしますか。 ・よくがんばったね。 ・これからも一緒に頑張ろう。 ・だまって抱きしめる。	☆自分が考えた言動の理由を答えさせ、その言動が相手の立場や気持ちを尊重したものになっているかを仲間と共に確かめさせる。そこで、仲間の考えた言動でよいと思ったものに触れることで、自分が考えた言動が相手の気持ちを尊重しているものになっているか振り返ることができるようにする。このことは、生活の中で仲間のよさや頑張りを認めようとする態度を育てることにつながる。〈自己啓発力〉
終 末	4 自己の振り返りをする。	・「なるほど」と思った仲間の意見やその理由を書かせ、心から信じ合える友人についての自分の考えや思いの変化に気付かせる。

【評価の視点】

互いの立場や気持ちを尊重した言動をとることが友情を育てていくことに気づけている。

第1学年 道徳科学習指導案

場 所 1階 1年2組教室
 指導者 牧野 晴菜

- 1 主題名 友情、信頼
 2 教材名 班での出来事

■ わらい

友人関係についての話し合いを通して、他者への理解を深め、互いの個性を尊重し、ともに成長することのできる深い友情を構築していこうとする態度を育てる。

3 本時展開

☆人権教育の観点との関わり

	基本発問と予想される生徒の反応	指 導 ・ 援 助
導 入	1 学習の見通しをもつ。 ○漫画の女の子の意見についてどう思うか。 ・乱暴な男子もいると思うけど、みんなではない。 ・女の子でも自分勝手な子はいる。	・特に男女に対する見方についての意見があれば、生徒に多く問うようにする。
展 開 前 段	2 範読を聞き、資料の友人関係について話し合う。 ○何が原因で班にまとまりがなかったのだろう。 ・女子がきついから。 ・男子が女子に任せているから。 ・男子と女子が互いに避けているから。 ・女子が言いたいことを言わないから。 ○どうして山田さんに押し付ける形になってしまったのだろう。 ・ノートをとるのが大変だから。 ・山田さんはノートをとっていないから、できると思った。 ・ノートとりをやらないなら、新聞のまとめはやってほしいと思ったから。 ○なぜ、金子君は山田さん呼びにいったのだろう。 ・母が入院していた事実を知って、申し訳ない気持ちになったから。 ・山田さんが家庭で大変な思いをしているのを知らなかったから。 ・新聞だけならできるだろうと思いついていたことを悪いと思ったから。 ◎山田さん呼びに行く必要はないのではないか。 ・はっきり言わなかったことが悪いのではなく、互いに理解し合おうとしなかったことがいけなかった。 ・「できるはず」と勝手に思い込んでいたのがだめだった。 ・大切なのは、言い方や態度ではなく、相手を思う心。 ○何が変わったから、班の仲は深まったのだろう。 ・互いの立場になって考えられるようになった。 ・相手の状況を想像できるようになった。	・登場人物6人の立場をしっかりと理解させる。 ・押し付ける形になってしまったときの金子君の気持ちに共感させる。 ・山田さんの立場を知った後の金子君の気持ちに共感させる。 ☆山田さんの立場を理解しようとするを通して、人間関係を円滑に進めるためには、互いの立場や個性を尊重し、他者への理解を深めることが必要であることに気付くことができるようにする。このことは、自己の生活を振り返り、自己の中にある弱さや考え方に気付き、それを克服したり改めたりしようとする力を高めることにつながる。 <自己啓発力>
展 開 後 段	3 自己の振り返りをする。 ○これから仲間と関わるときに、意識したいことは何か。	
終 末	4 教師の説話を聞く。	【評価の視点】 他者への理解を深め、互いの個性を尊重できる深い友情を構築しようとしている。